



## 【研修会報告】九手連 幹部会議に参加して

熊本県 天草わかぎ 橋本さん



6月28日(土)14:00~16:30に開催された「九手連 幹部会議」に参加しました。今回の幹部会議は地域の幹部または幹部候補者を対象に開催されました。グループ討議形式で、1グループ6名程度の5グループに分かれ30名程度の参加者でした。内容は、創立50周年を記念して実施・集計されたアンケート結果をもとに、2つのテーマに沿って議論やグループワークが行われました。テーマは「自分のサークルの自慢は何?」「県手連って何をするとところ?」の2つです。

「自分のサークルの自慢は何?」では、これまでの会議で扱われることの多かった課題や悩みといったテーマとは異なり、突然“自慢”を問われて戸惑う方も多かったように思います。しかし、進行とともに各グループで自然と会話が弾んでいきました。

私のグループでは、自己紹介の後、順番に自分のサークルについて発表しました。たとえば、50年もの長い歴史を持つサークル、他地域のサークルとオンラインで定例的に交流しているサークル、月に1回手話レベルに応じてクラス分けを行い学習しているサークルなどがありました。

参加者が少ないなかでも内容を充実させたり、自分が楽しむことを大切にしていたり、参加者同士の関係性を良好に保つ工夫をしている例など、思わず「真似したい」と感じる取り組みが多く、大変参考になりました。

また「県手連って何をするとところ?」というテーマでは、県手連の呼び方の違いや活動内容、理事会の開催頻度などを共有しました。県手連の役割としては、情報交換や交流の場であること、そしてろう協のイベントへの協力などが挙げられ、あらためてその存在意義を確認する機会となりました。役員の担い手不足といった課題も、共通していることが分かりました。16時から、各グループによる発表も行われ、各地の実情や工夫が共有される貴重な時間となりました。

今回得た学びや気づきを、今後の自サークルの運営にもぜひ活かしていきたいと思います。

## 【評議員会報告】 九手連 評議員会に参加して

長崎県 三根美奈子さん



6月28日に、くまもと県民交流会館パレアにて、九手連評議員会が開催されました。評議員数28名全員が出席しました。池尻和吉九手連会長の挨拶から始まり、九手連2代目会長を務められた村本宗和氏(現顧問)と熊本県ろう者福祉協会の松本幸造様の来賓挨拶とつづき、今回の開催地である熊本県選出の橋本議長の進行により議事が進められていきました。

令和6年度の事業報告で、各県手連にアンケート調査を行い、その集計結果を創立50周年の記念誌に記載することができたと聞き、ぜひその内容をサークル員に情報共有したいと思いました。質疑応答では、令和7年度の事業計画の方針に挙げていた「ホームページの運営と活用」について、「九手連のホームページをパソコンからだけではなく、スマホでも見やすいようになりリニューアルを」との要望がありました。近年、スマホで何でもできる時代なので、スマホで閲覧することもあり、対応してもらいたい内容だと思いました。他に会計報告について「増減の見やすいように本年度と前年度の列の入替えはどうか?」といった意見もありました。最後の役員改選では、大分と長崎が副会長になり、福岡、佐賀、大分、鹿児島の記事が新任となりました。

私は今回初めての評議員会に参加で、九手連の活動内容は長崎の県手連理事会での報告や、機関紙「はっけん」で知る情報ぐらいでした。今回の評議員会で九手連の活動、今年度活動計画を直接聞く事ができ、そして最後に出席者全員の評議員が簡単に自己紹介をして顔合わせができたこともよかったと思いました。会員のみなさま、今後ともよろしく願いいたします。



池尻和吉 九手連会長



村本宗和 顧問



熊本県ろう者福祉協会  
松本幸造理事長



新役員の皆さん



## 【新役員の紹介】

会長	池尻 和吉(福岡)	
副会長	川野 順二(大分)	江口 直美(長崎)
理事(各県)	久留 鮎美(福岡)	井上恵美子(佐賀)
	江口 直美(長崎)	村野 耕一(熊本)
	川野 順二(大分)	宮崎(休会中)
	小田 義人(鹿児島)	
監査	(佐賀県)	(熊本県)
事務局長	川上 順子(長崎)	
顧問	村本 宗和(熊本)	
相談役	森 保夫(熊本)	

## 【研修会報告】

2025 九手連研修会 in 熊本

「DeafSpaceデザイン」へといざなう

福島愛未さんの魅力



大分県日田市手話サークルあさぎり 都甲真美さん

午前、「DeafSpace Design とは？」をテーマに福島愛未さんの講演でした。福島さんの生い立ちから現在の活動についてお話いただきました。

子どものころ育った家に違和感があった福島さんは“ろう者のための家ができたらいいな”と思い、建築を学ぼうと決めたそうです。助成金を受け、世界で最初にできたろう学校、アメリカのギャロデット大学で「DeafSpace Design」について学び、帰国後も研究を続けています。

「DeafSpace Design」とは、ギャロデット大学が2010年に唱えた考え方で、Space and Proximity(空間と近接)・Sensory Reach(感覚範囲)・Mobility and Proximity(可動と近接)・Color and Light(色と光)・Acoustics(音響)の原則で、ろう者の文化や行動様式、視覚や振動などの感覚を生かし、ろう者・難聴者が快適に過ごせる建築デザインのことです。よく耳にする「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」とは違います。大事なのは、マイナス面や不便さをなくす考え方ではなく、快適で心地よい場所にするということだそうです。

動画では司祭もスタッフもすべてろう者の教会や東京都にあるろう者の交流施設「5005」の事例を紹介してくれました。例えば「5005」では、室内の照明が可動式で、場所によって影ができ手話が見えづらい時には見やすくする細かな調整ができる仕組みがあります。ろう者の感覚を最大限に生かすデザインの重要性に気づかされました。

「DeafSpace Design」の考え方は、まだまだ普及していないのが現状です。聴者はろう者の文化や行動様式をすべては知りません。だからこそ、建築プロセスからろう者・難聴者が参加する必要があると述べていました。

講演を聞き、ろう者と聴者が一緒にデザインを進めていくことで、文化や行動様式に対しても相互理解が深まり、リスペクトし合える世界になるのではないかと感じました。



### 【第 33 回 九手連研修会に参加して】

福岡県 遠賀手話の会 今井芳子さん

6月29日(日)くまもと県民交流館パレアホールにて開催された研修会。JRで新幹線や特急を使い小旅行の気分で参加しました。路面電車で熊本駅から水道橋(^\_^♪しあわせ気分(^\_^♪降りてすぐの広い会場は九州県内からの沢山の聴覚障害者や手話関係者が集っていました。

午前の講演は講師 福島愛未(めぐみ)氏の(デフスペースデザインとは?)です。筑波技術大学で建築を学び、ギャロデッド大学でデフスペースデザインを学び各国のデザイン研究後、国内での啓発活動でご活躍中。講演前は耳が聞こえない事が建築物や室内環境を考える必要があるのか?とっていた自分が2時間の講演で「なるほど」と理解できた説得力がすごい!



デフスペースの考え方は気持ちよく安全に過ごせる場居場所で、バリアフリーやユニバーサルデザインでは解決できない問題があり、音に関する情報が補えない・情報を知られる・視覚を遮られるなどにも配慮が必要である。例えば、会場に傾斜をつける(椅子の高さを変える)や、廊下でぶつかりそうになるのを防ぐためには、角に丸みをつける・ガラス張りにする。テーブルは□でなく6角形や花形等・椅子にコロを付け、相手の方向を向ける工夫、床も木材とカーペットに分けて木材では振動を感じられる。

他にも沢山ありました。今後は、公共施設の建築の時にも、当事者が参加しての話し合いが

出来るような社会に代わればとの貴重なお話でした。



午後の講演は講師 吉野幸代氏の(手話言語に纏わる変遷)のテーマです。沢山の役職をパワフルにこなされて現在もご活躍中の吉野氏は、会場をまきこんでの笑いがあふれる講演でした。各県からの参加者の手話の違いや、高齢者の手話・若い人の手話の違いなど、変化しているが、認めながら高齢者の手話を残す必要性がある事。

悲願だった『手話施策推進法』2010年から約15年のたゆまぬ運動で2025年6月実を結んだ。と喜びの報告がありました。と「同時に今後手話通訳者の身分保障問題と養成の問題にも取り組まなくてはならない」とのお話でした。また、「運動は皆さんの力が必要です。地域だけの活動に留まらないで、色々な行事や全国ろうあ者大会等の各県での催しに参加してほしい。」とお言葉に自分の事をいわれているようで、申し訳なく思いました。今後は出来るだけ、参加して沢山の顔見知りを作りたいとおもいます。グループで、意味に合った手話表現を考える時間があり、知らなかった隣のろう者と話せるきっかけを頂いて楽しかったこの体験を、多くの皆様感じてほしいです。

両講演ともに、手話に関する話し合いは必ず当事者と共に行う事が大切とおそわりました。関係者の皆様お世話になりました。



## 【九州手話サークル連絡協議会研修会報告】

佐賀県 鹿島手話サークル S・Fさん

梅雨明けの暑さが厳しい中、くまもと県民交流館パレアホールには総参加数195名(ろう者16名、難聴2名、離島リモート6名)が集まり会場は活気にあふれていました。初めて研修会に参加した私はこんなにも多くの方々が手話サークル活動携わっているんだという驚きと長年このような活動を継続してこられた諸先輩方の存在に感銘を受けました。

午前の部の講演は福島愛未氏による『DeafSpace Design(デフスペースデザイン)とは?』という内容でした。私は福島さんのことはNHKの番組で知り興味を持っていたこともあ



り今回の講演を楽しみにしていました。印象に残ったことは『ろう文化やろう者の感覚をプラスの方向で捉える。聴者に与えられるのではなく心地良い空間を自分たちで考えてデザインする』ためのデフスペースの様々なコンセプトの内容でした。詳しく知りたい方はぜひ福島さんのホームページをチェックしてください。

午後の部は、九州聴覚障害者団体連合会教育文化部長 吉野幸代氏による『手話言語に纏わる変遷』のテーマでの講話でした。今年 6 月に悲願の手話施策推進法が成立したことや手話言語の特徴、歴史、語彙の表現など慣用句を使った文の表現方法をグループで話し合い発表するなど盛りだくさんの内容でした。世代や時代に合わせて変化していく手話表現が今後も増えていくことに改めて手話言語の学びの難しさと面白さに気づきました。

お二人からのメッセージには共通するものがありました。それは『ろう者と健聴者の協働』という考え方です。物事を聴者だけで決めたり進めたりするのではなく車輪のようにお互いが一緒に同じ方向を向いて進んでいくことが大切だということでした。これからのサークル活動においてそのことを忘れずに今後も共に活動していきたいと思えます。

## 【2025 九手連研修会 in 熊本 に参加して】

### 鹿児島県 出水市 受講生さん

手話を習い始めてから 2 ヶ月ほどですが、今回の講演では自分が習った手話の単語や表現を生で見ることができました。また、表情で表現するという点について、講師以外の聾者の生の手話を見ることができて非常に参考になりました。講話者の休憩中の会話の際の手話は、非常にコンパクトな動きかつ高速でされていたので、読み取りができるようになるには、かなり鍛錬が要るなと思いました。

吉野幸代氏の講演を通して手話の特徴・手話は言語であること理由や、1つの表現で前



後の文章に合わせて色々な言葉になる事を学びました。

また、例題を手話でみんなの前で表現するときは、当たりませんように…と祈りました。表現も 1 つではない事も知りました。

手話はまだまだ学ぶ事が沢山あるなと改めて思いましたし、今回の参加で手話学習のモチベーションがかなり上がりました。

## 【2025 九手連研修会 in 熊本 に参加して】

鹿児島県霧島・始良地区聴覚障害者協会 城 安芸さん

6月29日(日)に九州手話サークル連絡協議会一日研修会に参加しました。

午後の部で思った事は、手話表現が変化していった事でした。

昔からの手話の表現を見て、まさに目からうろこがこぼれ落ちるほどの驚きで、胸がいっぱいになり、手話はずっと残していくものであり、手話表現もそのまま残していくものと改めて実感しました。

吉野幸代さんの講演は、大事なことに気付かされ、聞こえる人、聞こえない人関係なくみんなの心に浸透した内容だったと思いました。

来年も期待しています。本当にありがとうございました。



## 【各地域のサークル活動の紹介】

### その1: 佐賀県手話の会連絡協議会研修会

今年度から、佐賀県の委託を受けて「手話通訳者養成講座前研修」(年12回)と「スキルアップ研修」(5会場・年2回)を開催しています。

これは、昨年のSAGA2024 国スポ・全障スポで活躍したサガンティア(SAGAのボランティア)の活動を、終了させるのはもったいないという声を受けて実現したものです。

「手話通訳者養成講座前研修」は、奉仕員養成講座の修了者を手話通訳者養成講座へスムーズに進めることを目的としており、手話通訳者の増加を目指しています。

また、「スキルアップ研修」では、ボランティアのモチベーションを維持し、長く活動を続けてもらうことを目的とした内容を提供します。

この委託事業が効果を上げ、今後も長く続いていくことを願っています。



## その 2: 令和 7 年度熊本県手話サークル「わかぎ」定期総会・交流会

熊本県 玉名わかぎ M さん

日時: 令和 7 年 6 月 15 日(日)10:00~13:00

会場: 熊本県玉名市 玉名市民会館、会議棟

### < 定期総会 > 10:00~11:00

9 時 30 分より受付開始、予定より早く県内各地より会場に集まりはじめた。

10 時より開会、まず 6 月 6 日にお亡くなりになられた青山会長への黙祷を行い小野副会長より挨拶、引き続き森田熊通研会長より来賓挨拶を承りました。令和 7 年度県わかぎ定期総会への出席者数は(会員総数 349 名、出席 84 名、委任 249 名)でした。

議長に玉名わかぎ会員の清田幸次さんが選任され議事開始。清田さんは一か月前位から練習を重ねられ本番では大変緊張されたと聞いております。

今回、第 3 号議案 役員改選(案)で、会長(森)、副会長(村野)、事務局長(福島)、事務局員(田中)4 名が承認されました。後、副会長 1 名が空席の状態です。

その後、第 4 号、第 5 号議案と滞りなく議事は進んでいき定期総会閉会となりました。



### < 交流会 > 11:20~13:00

① グループ討議 ② 抽選会 ③ 引継ぎ式 ④ 閉会

参加者約 80 名で研修(A・B・C)、交流(A・B・C)、広報(A・B)の 8 グループに分かれて意見交換を行いました。各地域毎にいろいろな学習方法や交流のやり方等を出し合い例会のヒントとなった事でしょう。又、広報では、各地域の広報誌を持ち寄り情報交換を行いました。各グループ共大変盛り上がり設定していた時間があっという間に終わりました。抽選会は約 30 品目の当たりクジを会長に引いてもらい賞品と交換です。

最後に来年度開催の八代わかぎ会長、村岡さんに締めをいただき閉会となりました。



今回、11 年ぶりに玉名で開催した県わかぎ定期総会を機に、他サークルとの交流を深め手話を学ぶ事でたくさんの仲間がいる事を忘れないで日々活動して行って貰いたいと思います。

### その3： 鹿児島県伊佐市伊佐手話サークルコアラ

伊佐手話サークルコアラ 会員 17 名

例会 第1・第2 土曜日 10:00～11:30

第3・第4 金曜日 19:30～21:00

サークル例会では手話の単語や単文を手話で表す練習をしています。分からないところはろう者に教えて頂いたり、みんなで調べて学んでいます。また、クロスワードをみんなで考えたり、新しい手話を覚えたりしています。手話学習の他に物づくり体験(わら細工・コースター作り)や広報誌で市民の方に呼びかけを行い輪投げをみんなで楽しんで手話を知って頂く機会をつくっています。

今年度、去る7月4日念願の鹿児島県立聾学校の見学に行ってきました。先生方の案内で学校のいろいろな施設や授業風景の見学をさせて頂き、その後、座学で聾学校の歴史や今の子どもたちの現状など講義して頂きました。見学を終えてサークル例会時に各々で感想を発表しました。「先生方が手話を使って授業されていることにびっくりした。」「先生が手話が上手。」「昔の先生は手話は使わなかった。今の聾学校の子どもたちはうらやましい。」「聾学校を見学して感動した。もっと早く手話を始めればよかった。」などたくさんの感想がでました。今後、いろいろな場所に手話ができる人が増えていけるように手話サークルとしていろいろな機会に手話の大切さを伝えていきたいと思っています。



#### 【編集後記】

今回の「はっけん」は、6月28日・29日に熊本市のくまもと県民交流館パレアホールで開催された九手連幹部会議評議員会、研修会並びに各県からの取組をお伝えしました

9月の「全九州ろうあ者大会・全九州手話通訳者研修会 in おおいた」でまた、お会いしましょう

九州手話サークル連絡協議会 発行責任者：池尻和吉 事務局：川上順子